

## 群馬大学 女性研究者研究活動支援事業 (まゆだまプラン)キックオフシンポジウム — 大学における男女共同参画の促進を目指して—



取組にエールを送る高田学長

平成26年3月10日、女性研究者研究活動支援事業(まゆだまプラン)キックオフシンポジウムを、大学会館ミューズホールにて開催しました。教職員・学生など79名の参加者があり、男性の参加者が53名(うち教授・課長以上の職位25名)と、性別を超えて、男女共同参画や女性研究者支援に関する高い関心が

窺え、本学の取組について広く認識する良い機会となりました。

お二人の先生に特別講演、基調講演をいただきました。特別講演ではこの事業の主管で独立行政法人科学技術振興機構の山村康子先生から「女性研究者支援・育成の現状と今後」と題して、女性研究者の現状および女性研究者研究活動支援事業の取り組みとその成果をお話いただきました。その後、本学がこの事業により改善を図ろうとしている女性研究者の採用促進(特に理工学系)や在職比率の上昇、女性研究者研究活動支援制度や男女共同参画推進室の有効利用等についても期待を述べられました。

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事の郷通子先生には「女性研究者の活躍と採用・登用のために求められること」と題して基調講演をいただきました。郷先生はお茶の水女子大学の学長としての経験を中心にお話されました。会議などの効率化による9時5時勤務の推進、公募で選ばれたモデル研究者へのポストクまたは支援員の配置など職場システムの改革がワーク・ライフ・バランスの向上とともに女性研究者の指導的立場への昇進につながったとのことでした。女性研究者自身も受け身の姿勢から脱却し、リーダーシップや自分を積極的にアピールする能力を身につける必要性も説かれました。

また、男女共同参画推進室の末松美知子室長から「まゆだまプラン」についての説明がありました。昨年10月に策定された群馬大学男女共同参画推進基本計画の一環として、女性研究者支援のための研究環境を整え、子育て等のライフイベントとの両立を応援していきます。15名の室員が、「広報・ネットワーキング」、「意識啓発」、「支援体制・環境整備」の3つのグループに分かれ、各キャンパスに設置する「まゆだま広場」を拠点に活動を展開していくと語っていました。

最後に、男女共同参画担当理事の平塚理事からまとめの挨拶をいただき、無事、シンポジウムを終了しました。参加者からは「大変有意義だった」、「女性の問題であると同時に男性の問題でもあることを強く意識できた」、「多様性の視点、生活者としての支援をベースに、“まゆだまプラン”を展開してほしい」との声が寄せられました。



熱心に聞き入る大学幹部

# まゆだま広場 お披露目会 各キャンパスで開催

## 荒牧キャンパス

日 時：平成26年4月1日(火) 10:00~16:00  
場 所：荒牧キャンパス・まゆだま広場  
来訪者：高田学長、平塚理事、石川理事を含む20名(内女性研究者8名)

### 荒牧キャンパス・まゆだま広場

〒371-8510  
前橋市荒牧町4-2  
教養教育GC棟112  
電話 / 027-220-7134 (内線: 7134)  
開場 / 10:00 ~ 16:00

4月1日、荒牧キャンパス・まゆだま広場のお披露目会が開催され、学長と担当理事、女性研究者とのランチミーティングが行われました。軽食を囲みながら、気軽に、男女共同参画の在り方について意見交換が行われました。お披露目会を機に、多くの教職員が見学に訪れました。

高田学長からは、女性研究者研究活動支援事業「まゆだまプラン」を機に、群馬大学の女性の採用促進や登用、支援体制の整備を行い、事業終了後も、継続し発展させていけるように、取組を進めてほしいとエールが送られました。

参加者は「定期的にお弁当を持ち寄って、気軽に交流できる場としてほしい」、「相談ができる場を心待ちにしていた」、「学生や事務の方にも交流してほしい」など、いろいろ声を寄せてくださいました。ありがとうございました。



高田学長と平塚理事、参加者とのランチミーティング



交流コーナー・図書コーナー

## 昭和キャンパス

日 時：平成26年4月24日(木) 10:00~16:00  
場 所：昭和キャンパス・まゆだま広場  
来訪者：平塚理事、野島附属病院長、和泉医学系研究科長、渡邊保健学研究科長、  
岡島生体調節研究所長含む77名(内女性研究者25名)

### 昭和キャンパス・まゆだま広場

〒371-8511  
前橋市昭和町3-39-22  
群馬大学附属病院内1階旧手術棟・旧同愛会  
事務所前(アメニティモール・チネマそば)  
電話 / 027-220-7111(代)(内線: 4144)  
開場 / 9:00 ~ 16:00

4月24日、昭和キャンパス・まゆだま広場のお披露目会が開催されました。ランチタイムには病院長、医学系研究科長、保健学研究科長、生体調節研究所長を交え、推進室員とのランチミーティングが行われました。軽食を囲み、終始和やかな雰囲気の中、男女共同参画の在り方や現在の活動状況等について意見交換が行われました。

会には77名という多くの教職員や学生が訪れてくださり、大盛況のうちに終了しました。学生さんや女性研究者からは、先輩や他部署の研究者と交流できる場は貴重、との声をたくさんいただきました。

まゆだま広場は平日9時から16時、担当職員が在室時に利用できます。ちょっと休憩できる和室もあり、男女共同参画やキャリア形成に関する書籍、育児・介護等に関する情報を揃えています。また、個別に先輩の話を聞いてみたいという学生さんや若手研究者にメンターの紹介もいたします。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



研究科長等とのランチミーティング



和室もあります



# 桐生キャンパス

日 時：平成26年4月7日(月) 11:00~16:00

場 所：桐生キャンパス・まゆだま広場

来訪者：平塚理事、土橋副学長、篠塚理工学府長、花泉評議員を含む33名（内女性研究者6名）

桐生キャンパス・まゆだま広場

〒376-8515

桐生市天神町1-5-1

理工学部総合研究棟5階リフレッシュルーム

電話 / 0277-30-1071(内線: 1071)

開場 / 12:00 ~ 15:30

4月7日、桐生キャンパス・まゆだま広場のお披露目会が開催され、平塚理事と末松室長、推進室スタッフでランチを取り、終始和やかな雰囲気の中で男女共同参画の在り方について意見交換が行われました。また、多くの教職員や学生が見学を訪れ、賑わいました。

14時からは、末松室長と長安コーディネーターによる土橋副学長、篠塚理工学府長、花泉評議員へのインタビューが行われました。理工学系の男子学生と女子学生の比率や女性研究者の登用・採用、男女共同参画等について、和やかな雰囲気の中で、話が進められました。

お披露目会の途中、研究支援者制度を希望するイクメン研究者が立ち寄り、男女共同参画推進室のコーディネーターを交え、情報交換がなされ、早速、相談スペースとして活用されました。このように、今後も、相談の場としても活用していただきたいと思います。また、図書スペースでは、お披露目会の参加者や新任の女性研究者、女子学生が、ゆったりとソファに腰かけ、明るい陽射しの中くつろぎながら本を閲覧している姿も印象的でした。

参加者からは「穏やかで落ち着く空間」、「陽射しが入るので明るく暖かい」、「眺めが良い」、「音楽が部屋の雰囲気に合っていて良い」等の感想をいただきました。更に「今後も利用したい」との声も聞かれ、まゆだま広場のコンセプトが十分に伝わるお披露目会になったのではないかと思います。今後も、沢山の方に利用していただけるよう伝えていきたいと思っています。



平塚理事と末松室長、男女共同参画推進室員



ソファでくつろげます

## ～男女共同参画推進室 室員より～

### 女性研究者パワーアップに向けて



支援体制・環境整備 WG

保健学研究科 教授 嶋田 淳子

学生だった頃、大学の女性教員は非常に少なく、医学、理学、工学、薬学、農学部いずれも、女性の教授は一人もいなかったと記憶しています。10年後にはもっと増えるだろうと当時は考えていましたが、20年以上経った今でもこの状況はあまり変わっていません。私は、寄生虫感染による宿主応答について、分子生物学や細胞生物学的手法を用いて基礎的な研究をしています。最近この分野の学会に参加すると、女子大学院生や若い女性研究者の学会発表が増え、以前よりずっと華やかになりました。しかし、その後女性研究者として活躍する人は激減してしまう印象を受けます。研究が一番忙しい時期、楽しい時期に、結婚、出産、子育てが重なるため、研究を続けていくのが難しいというのが大きな理由と考えられます。研究を続けるには周囲の理解や支援がとても重要です。これまではこのような状況に対するサポートはほとんどなく、たくさんの方を同時にやりこなしていくスーパーウーマンが求められました。私自身、大学院生のころから孤軍奮闘ずっと走りつづけているといった感じです。研究も、子育ても中途半端で、十分にできているとはとても言い難いですが、自分自身の経験をもとに、微力ながら「まゆだまプラン」の実施に尽力したいと思っています。優秀な女性はたくさんいます。群馬大学で女性パワーを存分に発揮できるよう、本制度を充実させていきたいと思っています。

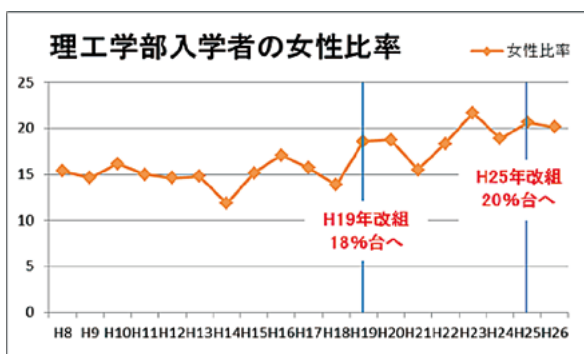
# 理工学府長インタビュー ～ 男女共同参画を語る～

インタビュー 篠塚 和夫 理工学府長  
インタビューアー 末松美知子 男女共同参画推進室長  
(副学長)

## 改組のたびに増加する女子学生比率!?

末松：女子学生の現状についてお願いします。

篠塚：平成26年度の入学者の男女比では、女性が20.15%です。多い学科では、化学・生物化学科で、少ないところでは環境創生理工学科、増えつつあるのが、機械知能システム理工学科です。平成8年度から18年度の間は、15%前後で推移しており、19年度にこの状況が変わって18%までに上がりました。改組をした年です。



それまでの生物化学工学科と応用化学科・材料工学科を一緒にして応用化学・生物化学科という非常に定員規模の大きな新しい学科を作りました。その影響があったのだと思います。平成19年度以降は15%から18%ぐらいで推移していたのが、25年度から20%と上の段階に乗りました。この年も工学部から理工学部へと改組をした年です。

末松：改組を機に比率は伸びたのは、改組の時に広報を積極的に行ったということでしょうか。

篠塚：そうですね。この改組時毎のステップアップには広報も効いていると思います。女子高校に積極的に宣伝活動を行うようになり、担当者の努力の甲斐あって、これだけ増えてきております。

## 理工学系の女性教員を増やす方策は？

末松：今度は教える側の研究者について伺いたいと思いますが、現状ではいかがでしょうか？

篠塚：実は女性研究者は、現在のところ5人しかおりません。全体の教員数は200人弱位であり、そこからうちの女性比率は2%台であると言われております。



理工学系では2名増やすと国にお約束しているのですが、できればこの5年間で4名の女性研究者の新たな配置を実現したいと考えております。

末松：やはり分野的にも難しいのでしょうか？

篠塚：理工学系の分野によっては、女性の学位取得者数がまだ多くないため、女性で大学院まで行きたいと思う人たちが、院を出た後できちんと専門性を活かせる職業に就くとか、キャリアパスがはっきりしていたら、大学院に行きたいという人も増えてくるのではないのでしょうか。

末松：このほか、特に女性研究者の採用促進案ということで具体的なものはないのでしょうか。

篠塚：「まゆだま広場」を整備して頂いた様に、女性研究者支援が採用促進に向けた一つの大きな取組ではないのでしょうか。また、大学院の女子比率はずっと横ばいで、一定数以上伸びていないのです。キャリアパスの問題もあるのだと思いますが、高度人材育成センターのポストクインターンシップの就職率は非常に高いので、女性の中にも浸透してくれれば、ドクターを目指そうという機運も出てくるのではないかと思います。

## 覚悟して女性教員を積極的に増やす！

末松：最後に理工学系の男女共同参画推進についての今後の抱負を聞かせて頂けますか。

篠塚：現状ではうちは女性教員が少ないのですが、女子学生が多くなって、女子のキャリアアップというのが基本であるならば、覚悟して女性教員を積極的に増やすべきだと思います。優秀な人達をどんどん理系に取り込んで人を育てる時には、男も女もないわけです。もし女性が、学生にしろ、教員にしろ、来られないような要因があるのならば、それを早急に取り除いて、普通に来て勉強して、普通に職に就ける、そういうことを地道にやっていくしかないだろうと思います。

末松：本日はどうもありがとうございました。